

2022 年度 卒業生アンケート結果

1. 調査概要

| | |
|------|--|
| 対象者 | 卒後1年目（2021年度卒業生18期生）99名 卒後3年目（2019年度卒業生16期生）98名 |
| 調査期間 | 2023年2月10日（金）～2023年2月28日（火） |
| 調査方法 | Formsによるアンケート調査（送信回数4回） |
| 回収率 | 卒後1年目 6.0%（回答数6名）、卒後3年目 20.4%（回答数20名） |
| 分析対象 | 卒後1年目 6名（有効回答率100%）、卒後3年目 19名（有効回答率95%） |

2. 現在の職種

| | 卒後1年目 (n=6) | 卒後3年目 (n=19) |
|-----|----------------|-----------------|
| 看護師 | 5 | 17 |
| 保健師 | 1 | 1 |
| 助産師 | 0 | 1 |

3. 現在配置されている領域

| | 卒後1年目 (n=6) | 卒後3年目 (n=19) |
|------|-------------|--------------|
| 急性期 | 2 | 13 |
| 慢性期 | 1 | 1 |
| 小児 | 1 | 1 |
| 母性 | 0 | 1 |
| 公衆衛生 | 1 | 0 |
| 精神保健 | 0 | 1 |
| 手術室 | 1 | 0 |
| その他* | 0 | 2 |

*混合内科1名、健康保険会社1名

4. 本学 DP の能力を臨床の現場で発揮することができているか。

卒後1年目、卒後3年目の両方で、すべての DP において“まったくそうではない”との回答はなかった。肯定的な評価（“非常にそうだ”～“まあまあそうだ”）が100%をしめた DP は、卒後1年目では「③チームで働く力」であり、卒後3年目では、「①人間の尊厳と権利を擁護する力」「②自己教育力」「④問題解決力」であった。ややネガティブな評価（“あまりそうではない”との回答があった）の項目は、卒後1年目では「②自己教育力」「④問題解決力」「⑤看護の専門性を探究する力」であり、卒後3年目では「③チームで働く力」「⑤看護の専門性を探究する力」であった。

| 項目 | 評価 | 単位 | 卒後1年目 (n=6) | 卒後3年目 (n=19) |
|-----|------------|-------|-------------|--------------|
| DP① | 非常にそうだ | 人 (%) | 0 | 3 (15.8) |
| | かなりそうだ | 人 (%) | 3 (50) | 10 (52.6) |
| | まあまあそうだ | 人 (%) | 3 (50) | 6 (31.6) |
| | あまりそうではない | 人 (%) | 0 | 0 |
| | まったくそうではない | 人 (%) | 0 | 0 |
| DP② | 非常にそうだ | 人 (%) | 0 | 5 (26.3) |
| | かなりそうだ | 人 (%) | 3 (50) | 7 (36.8) |
| | まあまあそうだ | 人 (%) | 2 (33) | 8 (42.1) |
| | あまりそうではない | 人 (%) | 1 (17) | 0 |
| | まったくそうではない | 人 (%) | 0 | 0 |
| DP③ | 非常にそうだ | 人 (%) | 1 (17) | 5 (26.3) |
| | かなりそうだ | 人 (%) | 3 (50) | 8 (42.1) |
| | まあまあそうだ | 人 (%) | 2 (33) | 5 (26.3) |
| | あまりそうではない | 人 (%) | 0 | 1 (5.3) |
| | まったくそうではない | 人 (%) | 0 | 0 |
| DP④ | 非常にそうだ | 人 (%) | 0 | 3 (15.8) |
| | かなりそうだ | 人 (%) | 3 (50) | 7 (36.8) |
| | まあまあそうだ | 人 (%) | 2 (33) | 9 (47.4) |
| | あまりそうではない | 人 (%) | 1 (17) | 0 |
| | まったくそうではない | 人 (%) | 0 | 0 |
| DP⑤ | 非常にそうだ | 人 (%) | 0 | 3 (15.8) |
| | かなりそうだ | 人 (%) | 2 (33) | 7 (36.8) |
| | まあまあそうだ | 人 (%) | 3 (50) | 7 (36.8) |
| | あまりそうではない | 人 (%) | 1 (17) | 2 (10.5) |
| | まったくそうではない | 人 (%) | 0 | 0 |

DP①人間の尊厳と権利を擁護する力、②自己教育力、③チームで働く力、④問題解決力、⑤看護の専門性を探究する力

5. DP で示される能力以外に【看護専門職として必要となる力】はどのような力だと思うか。その力が必要であると考えた【理由】、その力を身につけるために【どのようなことを学ぶとよい】と思うか。(自由記述)

●コミュニケーション力 (8 件)

卒業 1 年目

【看護専門職として必要となる力】コミュニケーション能力

【理由】 ケース会議などに参加する際、他の支援者との会話に詰まることが多々ある。支援者との仲によって、情報の共有のしやすさや相談のしやすさが大きく違うため、先輩方との差を日々感じる。また、訪問でも会話に詰まることが多々あり、訪問に行くのが億劫になってしまう

【どのようなことを学ぶとよいか】 学生だけでなく、大学教授や外部講師を含めたグループワーク。対等に話す場。

卒業 3 年目

【看護専門職として必要となる力】コミュニケーション力

【理由】 私たちは、学生の期間コロナ禍ではなかったため、たくさんの実習を乗り越え経験値を上げることができた。しかし、コロナ禍になって、限られた家族の面会時間で必要な情報を取る難しさを感じている。年齢の違うスタッフ同士、患者、家族など様々な年齢層と円滑なコミュニケーションやディスカッションが必要である。コロナ禍もあり他者とのコミュニケーションが減っている中で限られた時間で必要なコミュニケーションを取る力を身につける必要がある。

【どのようなことを学ぶとよいか】 クレーマー気質の患者、家族もいるためマナーと接遇などを学ぶとより自分の対処法を身につけられると思う。アセスメントからどの情報を得たいのか、円滑かつ効率的なコミュニケーション方法を知る。マナーと接遇は事例を挙げて対応方法を学ぶ。

【看護専門職として必要となる力】チームと似ているが、人間関係構築する力 コミュニケーション能力

【理由】 仕事をしていく上で、人間関係が大きく影響している

【どのようなことを学ぶとよいか】 アサーティブなコミュニケーション方法

【看護専門職として必要となる力】非言語的コミュニケーション能力

【理由】 臨床では失語症などでコミュニケーションを図るのが難しくなってしまった患者さんと関わる機会があるため、非言語的コミュニケーションを利用し思いを傾聴することのできる力を身につけた方がいいとおもう。

【どのようなことを学ぶとよいか】 ジェスチャーの工夫や失語症の方へのコミュニケーションツールの種類、活用方法

【看護専門職として必要となる力】先輩に好かれる力

【理由】 上下関係が自らの看護に直接的に関わると感じるから

【どのようなことを学ぶとよいか】 コミュニケーションスキル

【看護専門職として必要となる力】コミュニケーション能力

【理由】 コミュニケーション能力がないと、患者からの S 情報が入ってこなかったり、チームで十分な情報共有ができなかったりするから。

【どのようなことを学ぶとよいか】 コミュニケーションが上手い人の真似をしてみる

【看護専門職として必要となる力】他者へ働きかける力、互いを尊重し合う思考

【理由】他職種と関わり合う機会が多い中で、専門的な視点を持ち発信しつつ、他職種の意見も反映できる力が必要だから。

【どのようなことを学ぶとよいか】他職種の仕事について(ソーシャルワーカーなど)

【看護専門職として必要となる力】 多様性の理解

【理由】様々な考えを持つ人と密に関わるため

【どのようなことを学ぶとよいか】自ら世界の多様性理解への動向を調べて発表するなど。

●思考力 (4件)

卒後1年目

【看護専門職として必要となる力】ありのままに受けとめるだけでなく、なぜそうなるのかというような疑問や探究心を持つこと

【理由】小さな疑問から自身の看護を振り返ることが出来たり何気ないことも根拠があって実践しているから。

【どのようなことを学ぶとよいか】全体像を捉える力や先を見据える力、リスクからどんなことを考えて準備しておくべきかということ

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】 観察力、考える力

【理由】観察力や、考える力は患者の状態をしっかりと観察し、患者に何が起きているのかを考える必要があるから。

【どのようなことを学ぶとよいか】観察・考えるために必要な病態や治療、薬剤について学習したりする。

【看護専門職として必要となる力】 考える習慣

【理由】暗記だけじゃ対応できないから

【どのようなことを学ぶとよいか】経験談を聞く場や意見交換の場を作ること

【看護専門職として必要となる力】どのような事象でも、根拠やマニュアル、指導者の助言等に沿って手順通りに遂行していく能力が大切であるが、それだけに頼らず一度自分の中で思考しも吟味していく能力が必要と思う。

【理由】看護師として勤めていて正しい基準やマニュアルがありそれに沿って業務をしていくと、その動作のルーティンに慣れていき流れ作業でしてしまうことが多々ある。自身の悪い癖でもあるが、日々変化している人間の身体の観察を行う中で、たくさんの情報から吟味して適切に対応できる能力が必要だと感じたため。

【どのようなことを学ぶとよいか】日々様々な新しい経験をすること。自分の知識として定着するまで思考することを経験すること。

●自己管理能力 (3件)

卒後1年目

【看護専門職として必要となる力】自分の心身の健康を管理しながら仕事に望む力

【理由】慣れないことを毎日していくのでストレスが多く、体調を崩しやすい

【どのようなことを学ぶとよいか】自分と他の人のメンタルケアの方法

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】 自分の心身の健康を保ちながら、自分にあった看護師としての仕事を続けていく、自己分析力と管理能力が必要だと考える。

【理由】初めて働いたところでは毎日精神的にも体力的にもつらく、心身共に調子が悪くなるが多かったが、転職先が自分の体力にも性格にも合っているところで健康的な生活を取り戻せたため。自分に何が合っているのかどうか理解することが大切だとわかった。

【どのようなことを学ぶとよいか】名前は忘れましたが、アンケートのようなものを答えていき、自分の性格やどういう力を持っているかなどを診断するもので自分を自己分析できると思う。また、実習だけでなく実際に様々な分野の看護師の仕事について学ぶことも大切だと思う。

【看護専門職として必要となる力】 プライベートと仕事のオンオフをつけられる力

【理由】私自身仕事を家に持ち帰ることが多く、プライベートの時間を全くとれず過労と軽度適応障害になってしまったため、仕事に真面目に取り組むことも大事だがプライベートの休む時間も大切であることを後輩に伝えたい。

【どのようなことを学ぶとよいか】先輩に相談しやすい、意見を言いやすい職場環境作りが当たって、自分ができることはなにか、周りに相談できる相手を必ず作ることを知ってもらう

●柔軟に対応できる能力（2件）

卒後1年目

【看護専門職として必要となる力】 看護はマニュアル通りにはいかない、経験値が看護する上でいけることとなる場面も多いことから、急変や日々変化する状況に応じた臨機応変な対応ができる力が必要。

【理由】複数の患者がいたらそれぞれに必要なニーズは違い、状況は似ていても患者ごとに処置の方法が変わるため対応が難しいと感じたため。

【どのようなことを学ぶとよいか】演習の場面で臨機応変な対処ができるよう訓練できたら良いと思う。

【看護専門職として必要となる力】 応用力

【理由】臨機応変に柔軟な思考の元で動くことが求められるため

【どのようなことを学ぶとよいか】事例を用いて、自分がどう動くべきかディスカッション

●ビジネスマナー（2件）

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】 社会人としての基礎力

【理由】知識や技術の取得以前に先輩との仕事で必要最低限のマナーが必要だと感じたため

【どのようなことを学ぶとよいか】普段から先生方や周りの先輩と関わりを持つ

【看護専門職として必要となる力】 社会人基礎力

【理由】後輩の指導をする中で、ある程度必要だと感じたから。

【どのようなことを学ぶとよいか】看護師としてだけでなく、社会人として上司や先輩との関わり方やメール等のやりとりなどを学んでおきたかったと思う。

●看護技術（1件）

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】 知識だけでなく臨床の場で動くことのできる実践力を身につけらることができたらいいなと思います。

【理由】大学生の時は教科書や論文などで学習することの大切さを学ぶことができたが、実際に現場に出る

と必要な知識が不足していたことを痛感した。(バルーンの入れ方、ルートを取り方や固定方法、実際に
行われる褥瘡対策のポジショニングなど)もう少し臨床で役立つような内容を実習や練習の場を設けて学
びたかった。

【どのようなことを学ぶとよいか】実習期間や内容の見直しなどを行い、教員の力を借りつつ学生主体で実習
に取り組むべきだと思う。1～3年では良く内容などわからないまま教員に言われた通りに実習に行っていた記憶
があるから。

●課題探求力 (1件)

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】不足している能力を知ること、課題模索スキル

【理由】業務が遂行できない理由やアセスメントが不足している理由の根本を自分で考える必要がある

【どのようなことを学ぶとよいか】言動の根拠を考える、なぜそう考えたのか、なぜこの行為が必要なのか

●判断力 (1件)

卒後1年目

【看護専門職として必要となる力】即時判断力

【理由】急変時には特に必要なため

【どのようなことを学ぶとよいか】実技を増やす

●相談力 (1件)

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】引き際を見極める力

【理由】専門職として接すると、高い知識と技術が必要となる。それでも、難しい時は患者の安全を守るために、
引いて、他に相談する力が大事だから。

【どのようなことを学ぶとよいか】普段からできないことをできないという

●専門性を高める力 (1件)

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】認定看護師などがある現場では質の高い看護を提供することができるため、
各分野、専門性を高める力が必要と考える

【理由】専門性を高めることで、知識の共有につながり、各々の看護師としての知識がプラスになる。また、その
知識の共有が患者へ還元されると考える

【どのようなことを学ぶとよいか】認定看護師の種類、認定看護師になるための流れや活動内容などを知る、
学ぶ、機会が増えるという

●リスクマネジメント力 (1件)

卒後3年目

【看護専門職として必要となる力】危険性を予測する力

【理由】看護をしている上では常に隣合わせの課題ではありますが、1年目は特に環境に慣れていない点や経験
が未熟である点などから、患者さんと関わる中でたくさんの危険な場面に遭遇することがあると思う。問題解決力
に少しかぶる部分はあるが、何かが起こった時、起こりそうになった時に自分で振り返られる力は学生の時から
考えられるように準備しとくといいいのかなと思う。

【どのようなことを学ぶとよいか】実際に経験してみないとイメージがしにくいと思うが、過去の臨床におけるインシデントなどを取り上げて再び起こさないようにするにはどうしたらいいか、自分自身が当事者のつもりで周りとの意見交換をしながら改善策を考える機会があればいいかなと思う。

6. まとめ

1) 回収率について

卒後1年目6名、卒後3年目19名から回答があった。前年度と比較すると回答数はやや増加している(2021年度卒後1年目8名、卒後3年目9名)。アンケートへの協力依頼メールは遥碧会担当者の協力をいただき4回送信したが、回答数の明確な増加にはつながらなかった。

2) DPの力の臨床現場における活用について

全体的に、“まったくそうではない”という評価はなく、卒業時に身に着けたDPの力を現場で活用できていると評価した。卒後1年目と比較して卒後3年目の評価では“非常にそうだ”の割合が多い印象があった。経験が増えるごとに、卒業時よりも発展的に自分の力を発揮している可能性があると考えた。

3) 看護専門職として必要となる力はどのような力であるか

回答は26件であった。卒後1年目より卒後3年目のほうが、記述内容に実践経験からの学びが多く見受けられ、自己の課題が明確化されて客観的に考察できる力を身に着けている様子が見えかけた。

コミュニケーション力に関する記述が8件と最も多く、対象者へ援助を実践するため、あるいは業務遂行上の様々な相手とのコミュニケーションについての記述があった。ついで、思考力に関する記述が4件あり、疑問を持って考える重要性についての記述であった。自己管理能力に関する記述が3件あり、自己の健康管理やストレス・コーピングの重要性が述べられていた。また、柔軟に対応できる力として、対象に応じた臨機応変な対応ができる能力の必要性について記述があった。その他、ビジネスマナーの必要性等の記述があった。

実践経験を重ねる中で卒業生が必要性を実感している能力のほとんどは、本学のDPに示されている能力であった。

4) データ収集等の課題について

卒業後の教育成果や効果を検証するためにはデータ数が不足している。一定期間のデータを集計した定期的な評価も行うか、協力者の依頼方法やデータのとり方などが課題である。